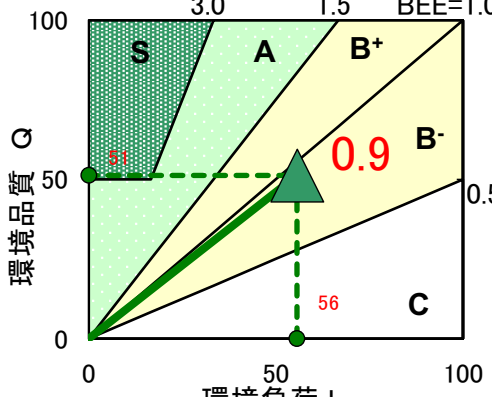
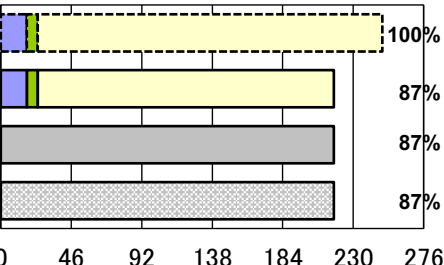
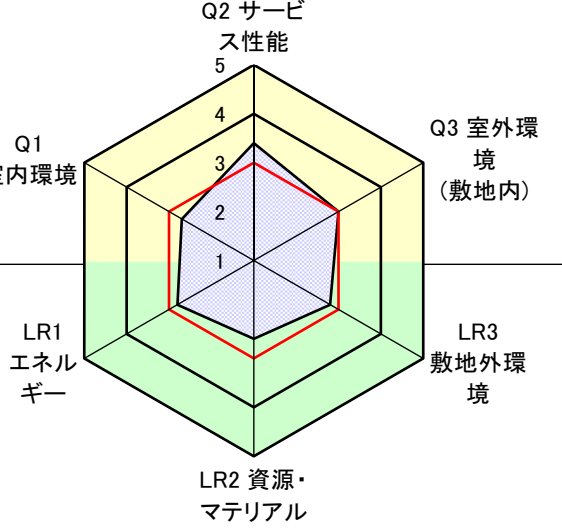




■使用評価マニュアル： CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2016 | 使用評価ソフト： CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	(仮称) SaPoRe 熱田店	階数	2F	外観パース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください	
建設地	名古屋市熱田区新尾頭2丁目401-1,401-2,406~412	構造	S造		
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	300 人		
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)		
建物用途	物販店,工場,	評価の段階			
竣工年	2021年2月 予定	評価の実施日	2020年5月8日		
敷地面積	6,795 m ²	作成者			
建築面積	2,739 m ²	確認日	2020年5月8日		
延床面積	3,470 m ²	確認者			

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE0.9 ★:S:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★ B-:★★★ C 	☆☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆☆ 60%:30% 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+  このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです	

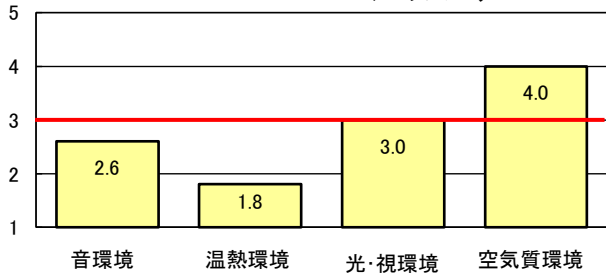
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア= 3.0

Q1 室内環境

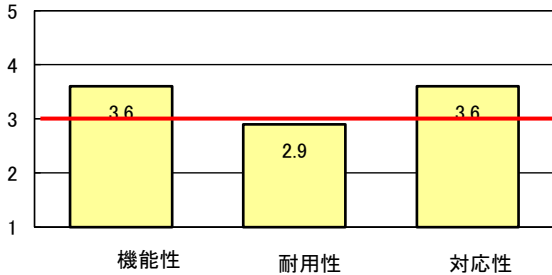
Q1のスコア= 2.7



項目	スコア
音環境	2.6
温熱環境	1.8
光・視環境	3.0
空気質環境	4.0

Q2 サービス性能

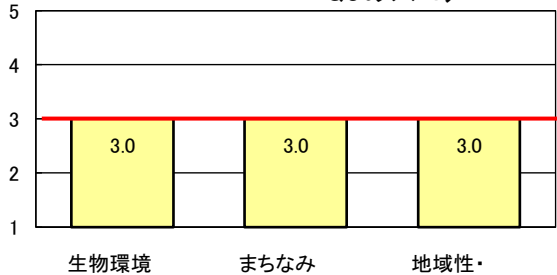
Q2のスコア= 3.4



項目	スコア
機能性	3.6
耐用性	2.9
対応性	3.6

Q3 室外環境（敷地内）

Q3のスコア= 3.0



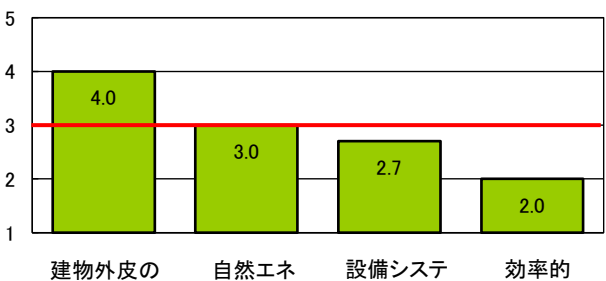
項目	スコア
生物環境	3.0
まちなみ	3.0
地域性・	3.0

LR 環境負荷低減性

LR のスコア= 2.7

LR1 エネルギー

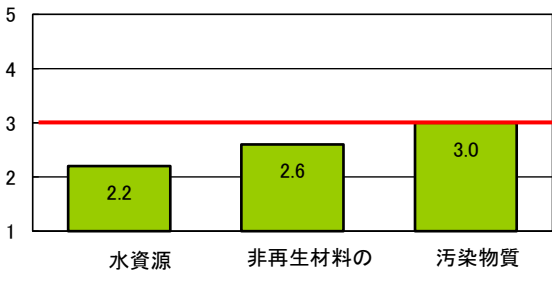
LR1のスコア= 2.8



項目	スコア
建物外皮の	4.0
自然エネ	3.0
設備システ	2.7
効率的	2.0

LR2 資源・マテリアル

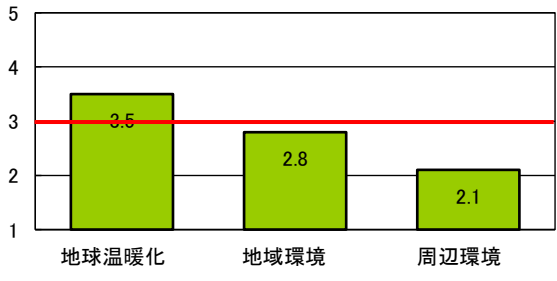
LR2のスコア= 2.6



項目	スコア
水資源	2.2
非再生材料の	2.6
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア=2.8



項目	スコア
地球温暖化	3.5
地域環境	2.8
周辺環境	2.1

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
室内の熱効率を高め、エネルギー消費量を抑え、CO2排出量低減化を目指す。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
Low-eガラスの採用により外部からの熱負荷を低限し、室内の温度環境を安定に保っている。	共用部を広く配置し、天井高を高く設定して、機能性・快適性の向上を図っている。	敷地内に多くの緑地を有し、生物環境・温熱環境に配慮している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
外部ガラスにはLow-eガラスを採用し、熱損失・熱の侵入を抑制し、室内環境を快適に保つ。	節水型便器や自動水栓を採用し、使用量を削減。	十分な駐車場を整備、交通負荷を抑制。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称) SaPoRe 熱田店

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				2.9
LR1	エネルギー	2.9	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				3.1
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.094237442	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	有	0.009423744	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上			
3. 循環型社会				2.6
LR2.1	水資源保護	2.2	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 2.9



2. 自然共生

評価点 = 3.1



3. 循環型社会

評価点 = 2.6



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。